



～ 令和7年度 学校評価の結果について ～



本校の教育目標「自ら学び共に考え行動する心豊かな氷丘っ子の育成」の実現に向け、この一年間、教職員が心をつにして教育活動に励んでまいりました。

この「学校評価」は、私たちの取組が子供たちにとって本当に最善であったかを客観的に振り返り、より良い学校づくりへと繋げていく大切な指針です。児童・保護者・教職員による「学校自己評価」に加え、学校運営協議会委員の皆様からも「学校関係者評価」をいただきました。これらの結果を皆様と共有し、成果と課題を分かち合うことで、次年度の学校運営をさらに充実させていきたいと考えております。

アンケートへの温かいご協力に、教職員一同、心より感謝申し上げます。

【 学校自己評価・学校関係者評価 】 評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

重点事項	(1) 自ら学び、共に考え、高め合う力の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ意欲を育て、協同的探究学習を核とした授業改善 ICT活用を踏まえた協働的な学びの充実 ・個に応じたきめ細やかで適切な支援 系統立てた指導による基礎・基本の習得 	
学校自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年を通して、まずは「落ち着いて過ごせる教室づくり」を大切にしてきた。単にルールを徹底するだけでなく、子どもたちが「ここなら安心して失敗できる」と思える空気を目指した結果、対話が深まり、自ら学ぶ姿勢が少しずつ見られるようになった。 土台は整いつつあるが、学習内容の定着具合にはまだ個人差がある。今後は、この良い雰囲気を生かしながら、一人一人の理解度に合わせた丁寧なサポートをどう充実させていくかが課題である。
学校関係者評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら学ぶ楽しさ（主体的な探究）」を実現するために、まず「落ち着いた環境（静的な基盤）」を整えるという順序がよい。環境を整えることが目的にならないよう、その先にある子どもの姿を考えることを大切にしていってほしい。
重点事項	(2) 認め合い、語り合い、行動する力の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を高め、互いに認め合い、多様性を受容する人権教育の推進 心に寄り添う生徒指導、いじめ防止対策の推進 	
学校自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育・人権教育のおかげで、子どもたちの間には「みんな違っていいよね」という優しい空気が広がってきた。みんなで仲良く過ごす土台はできた反面、自分に自信が持てない児童がいるのも現状である。一人一人の小さな心の変化に気づいたり、いじめを未然に防いだりといった、きめ細かなサポートはまだこれからという部分もある。これからは、この穏やかな雰囲気を大切にしながら、形だけの理解で終わらせないようにしたい。 子どもが自分なりに「どうしたら暮しやすいクラスになるのか」を考え、仲間と一緒に高め合えるような、話し合いにつなげていきたい。どの子どもも安心して自分らしくいられる場所を、しっかりと作っていかうと考える。
学校関係者評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 「本音」を語り合える空気をつくる。教科書的な「きれいごと」だけでは解決できない現実がある。保護者自身の経験に基づいた「生の声」を伝えることで、子どもは道徳を自分の生活に引き寄せて考えるようになる。

重点事項	(3) 健やかな体を育む安全・健康教育の充実心身ともに健康・安全を保つ力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの目標をもった体力づくりの推進 ・発達段階に応じた指導を通じた健康で安全な生活の習慣化 ・基本的な生活習慣の定着に向けた取組の充実 ・危機管理能力の育成と実生活に生きる防災教育の充実 	
学校自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりについては、目標を決めたことで運動への関心は高まったが、実際に取り組んでいるかどうかは個人によって差が出た。 ・生活習慣においては、学年が上がるにつれて寝るのが遅くなったり、食生活が乱れたりする子が目立ち、定着したとは言えない。成長に合わせた指導を続けてきたものの、生活リズムが崩れている現状には強い危機感を持っている。 ・防災教育や危機管理については、本番を意識した訓練や事前の指導によって、自分で判断して動く力がついてきた。
学校関係者評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康への指導は一定の成果を上げている。よいところや課題などをどんどん家庭に発信してほしい。
重点事項	(4) 開かれた教育課程 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域との連携 ・情報発信の充実 	
学校自己評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年だより、ホームページの更新を頻繁にできた学年とそうでない学年の差が少しあった。保護者との連携をさらに密にしていくため、学校の様子を積極的に保護者に伝えていく姿勢が必要である。
学校関係者評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・氷丘小学校のホームページは学年ごと、学校全体のことなど更新されており、学校の様子を地域に発信し、学校の様子を伝えようと努力していることがうかがえる。

アンケートの主な回答内容

児童アンケートより (よかった点○ 今後の課題△)

○学校は楽しい。 ○仲のいい友達がいる。 ○先生は自分のいいところに気づいてくれている。
 ○元気に学校に登校することができる。
 △食事や寝る時間など、生活の決まりを守れていない子どもが少しいる。
 △いじめは、絶対に許さないとは思わない子どもがわずかながらいる。

保護者アンケートより (よかった点○ 今後の課題△)

○基礎、基本をしっかり教えてもらった。 ○学校生活を楽しんでおり、家庭でも話題にしている。
 ○学校生活の基盤をしっかりつくってくれた。 ○totoruがしっかり活用できている。
 ○係を決めたりすることで責任感が出てきたのが良いと思う。
 ○食育を楽しく教わり、一緒に料理をしたり、食事の栄養を気にしたりしてきた事が良かった。
 △今以上に、個々の特性に応じた、きめ細やかな支援をしてほしい。
 △いじめ防止や生徒指導の取組に安心感がもてない場面があった。
 △学校の様子や子どもの良いところをもっと伝えてほしい。

教職員アンケートより (よかった点○ 今後の課題△)

○授業力の向上を図るため学年単位で授業研究を深め、考えを深める力や理解度が高まった。
 ○基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、1年間の見通しをもった学習指導を行うことを心がけた。
 ○児童のニーズの把握やトラブルへの迅速な対応を心掛けた。 ○学習へのICTの活用が進んだ。
 △校則の守らせ方や問題行動への対応について、教員によって温度差がある。研修等で学び、今後の学校組織の強化を図り、チームでの対応力を向上させる必要がある。
 △インクルーシブな視点と多様性への配慮を深め、誰もが自分らしく安心して過ごせる環境を整える。
 △無駄を省き業務を効率化し、ゆとりを持って児童の支援や連携に専念できる体制を築く。

来年度の方策・改善点 ～「想い」を重ね、共に歩む学校づくりへ～

学校評価を通して、皆様の願いと学校の取組を一層重ね合わせていく大切さを再確認しました。子どもを真ん中に置き、学校・家庭・地域が同じ歩幅で進んでいけるよう、3つの改善を図ってまいります。

- ① 家庭との情報のズレをなくす。
ICTを活用し、学年の取組や指導内容をこまめに家庭へ届ける。学校での取り組みを可視化することで、保護者の不安を解消し、信頼関係を築けるようにする。
- ② 保護者や地域と共に子どもを育てる
学校だけで完結させず、保護者の方々や地域のボランティアを積極的に受け入れる。目指すべき姿を共有し、誰もが関われる「開かれた学校」を実現する。
- ③ 組織的な「チーム氷丘」の確立
教職員の間でルールや対応基準を統一する。全員が連携して動く「チーム体制」を確立する。